

1 学校運営の中期目標

現状と課題

鳴野小学校の子どもたちは、優しく素直な子どもが多いが、積極性にやや欠け、受動的な子どもが多いのが現状である。学力は、「小学校学力経年調査」では全学年、全教科で大阪市平均を上回り、「全国学力・学習状況調査」等においても全国平均を上回った。また、運動面では、日常的に運動している子とそうでない子との差があることが課題であるが、全国体力・運動能力テストにおいて、調査対象学年は男子が大阪市・全国平均並み、女子は大阪市・全国を大きく上回る結果となった。家庭生活においては、中・高学年において早寝ができず、十分な睡眠時間が確保されていない子どもも多い。このような課題に対して、これまで、学習面においては、国語科・算数科・体育科で、交流活動に重点を置いた授業を研究実践してきた。これにより、子どもたちは、学び合う良さを実感しつつある。また、ピアサポート活動を取り入れた取り組みにより、友達を思いやる気持ちや自尊感情が育ってきた。あわせて、あいさつ運動や基本的な生活習慣確立のための取り組みも行い、成果が見えつつある。

この成果を踏まえ、本年度は以下の点に重点を置いた取り組みを進めていく。

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ・「学校のきまり」を守り、自主的・自律的に行動できる態度を育てる。
- ・「あいさつ」をはじめとしたコミュニケーションが大事であることを理解させ、それによる自己有用感を育む。
- ・人権尊重の精神をはぐくみ、自己有用感を感じることでの子どもの育てる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

学力の向上

- ・国語科・算数科において交流活動を効果的に取り入れ、ともに学び合い高め合う良さを実感させる。また、学習することの充実感や達成感を味わわせるとともに、基礎・基本を明確にした教材研究を行い、基礎学力を定着させる。

健康や体力を保持増進する力の育成

- ・年間を通じて、基礎・基本を明確にした授業研究に取り組み、子どもたちが運動することの楽しさを味わい意欲的に運動することにより、体力の向上につなげるようにする。
- ・早寝早起き等の基本的な生活習慣の確立や、よい食習慣を身につけることにより、健康の保持増進を図る。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ①令和3年度の学校アンケートにおける「きまりを守って、正しく行動している」の項目で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合を、平成29年度より向上させる。
- ②令和3年度の学校アンケートで「自分にはよいところがある」の項目で「そう思う」「どちらかというそう思う」を合わせた割合を平成29年度より向上させる。
- ③令和3年度の学校アンケートで「あいさつをしっかりとっている」の項目で、「そう思う」「どちらかというそう思う」を合わせた割合を平成29年度より向上させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ①令和3年度の全国学力・学習状況調査における「授業がよくわかる」の項目で、国語・算数とも「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」割合を、全国平均を上回るようにする。
- ②令和3年度の全国学力・学習状況調査における「国語・算数の勉強は好きだ」の項目で「当てはまる」「どちらかという当てはまる」割合が、全国平均を上回るようにする。
- ③令和3年度の学校アンケートで「日ごろ、運動をよくしている」の項目で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」割合を、80%以上にする。
- ④令和3年度の学校アンケートの「食に関する興味関心」の項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を、80%以上に維持する。
- ⑤令和3年度の学校アンケートの「早ね・早起き」の項目で、「早ね・早起きの大切さ」で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合の75%以上を維持する。

2 中期目標の達成に向けた 年度目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

＜全市共通目標＞

- ①令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を95%以上にする。
- ②令和2年度の小学校経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかと言えば、当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。
- ③令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- ④令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童数の割合を前年度より減少させる。

＜学校独自目標＞

- ①令和2年度の学校アンケートで「自分にはよいところがある」の項目で「そう思う」「どちらかという」とそう思う」を合わせた割合を平成29年度より向上させる。（H29 76.2%、H30 78.7%、R1 75.9%）
- ②令和2年度の学校アンケートで「あいさつをしっかりとっている」の項目で、「そう思う」「どちらかという」とそう思う」を合わせた割合を平成29年度より向上させる。（H29 90.3%、H30 87.4%、R1 84.8%）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

＜全市共通目標＞

- ① 令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ② 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- ③ 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- ④ 令和2年度の小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。（R1 4年 74.5% 5年 78.9% 6年 84.3%）
- ⑤ 体力向上に向けて、かけ足週間や、かけ足大会の取り組みを行い、令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、20mシャトルランの記録を大阪市平均・全国平均を1ポイント以上上回るようにする。（※体力テスト中止のため、かけあし週間後に調査該当学年で20mシャトルランを計測し、大阪市平均・全国平均のそれぞれ過去3年間の平均値と比較する。）

＜学校独自目標＞

- ① 令和2年度の学校アンケートの「食に関する興味関心」の項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を、80%以上で維持する。（昨年度 89.4%）
- ② 令和2年度の学校アンケートの「早ね・早起き」の項目で、「早ね・早起きの大切さ」で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合の75%以上を維持する。（昨年度 82.7%）

3 本年度の自己評価結果の総括

最終評価時に記載

評価基準	A：目標を上回って達成した。	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】 ＜全市共通目標＞ ①令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を95%以上にする。 ②令和2年度の小学校経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかと言えば、当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。 ③令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ④令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童数の割合を前年度より減少させる。 ＜学校独自目標＞ ① 令和2年度の学校アンケートで「自分にはよいところがある」の項目で「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた割合を昨年度より向上させる。 （平成29年度 76.2% 平成30年度 78.7%）<u>令和元年度 75.9%</u> ② 令和2年度の学校アンケートで「あいさつをしっかりとっている」の項目で、「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた割合を昨年度より向上させる。 （平成29年度 90.3%平成30年度 87.4%）<u>令和元年度 84.8%</u>	

年度目標達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を知る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 学校で認知したいじめについては、100%解消に向けて取り組む。 指標 月1回の子どもサポート委員会、週1回の学年研修会を行い、全教職員で共通理解する。	B
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】 きまりを守り、すすんであいさつができる子どもを育てる。 指標 ・児童の「きまりを守って正しく行動している態度」を認める声かけを月目標などを活用して個々に具体的に行い、学校朝会や学級で評価する。 ・生活の中のさまざまな場面で使われるあいさつについて意識づけや評価を行い、あいさつができるようになってきた児童の割合を増やす。 ・学期に1回あいさつ週間を設け、児童の意識の向上を図る。 ・家庭や地域の方々にも啓発を行う。（地域活動協議会・ありがとうの会・懇談会・小中連携・学年だより・校長講話など）	C
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】 人権尊重の精神をはぐくみ、自己有用感を感じることができる子どもを育てる。 指標 ・子どもたちの活動と自己有用感を結びつける声かけを行い、児童のいいところを共有する。 ・年間計画に基づいて道徳の時間を100%確保する。 ・地域のボランティアの方々との交流や社会見学、外国文化に触れる体験的な活動を工夫し	B

て実施する。

- ・ピアサポートの（学級・学年・異学年での）実践を学期に1回以上行う。
- ・ファミリー活動を充実させ、学期に1回以上のファミリー行事を行う。

年度目標達成に向けた取組の進捗状況の結果と分析

【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】【施策2 道徳心・社会性の育成】

- ①職員会議でスクリーニング会議1を行い、子どもサポート委員会では地域やスクールカウンセラーも参加し、昨年度以上に気になる児童についての情報を共有し、解決に向けた糸口も考えられようになってきた。
- ②右側通行の掲示を取り入れることで、意識して通行する児童が増えているが、まだ十分ではない。廊下や階段の歩き方については今後も指導が必要。また、コロナ禍の影響であいさつへの意識が十分ではなく、自主的にあいさつできる児童はまだまだ少ない。生活指導週目標の学校朝会での評価が十分ではない。
- ③学年の実態に応じて、ピアサポートの実践など取り組みを行うことができている。コロナ禍であったため、1学期はできなかったが、ファミリーについては2学期取り組めるようになった。

後期に向けての改善点

【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】【施策2 道徳心・社会性の育成】

- ①引き続き、様々な課題への共通理解を深めるとともに、児童による「いじめ」の訴えがあれば、今後もその都度解決に向けて取り組む必要がある。
- ②今後の「あいさつ週間」など児童会活動を中心に、あいさつを意識してする習慣を身に付けられるようにしたい。また、学校朝会で月（週）目標についての評価を行い、児童に目標の意識付けと達成感を味合わせるようにしたい。そのために、看護当番を一週間終えるごとに、児童の様子について報告（skipの会議室でも可）するなど、普段の看護当番を指導の継続性があるものにしていきたい。
- ③ハッピーフェスティバルなど今後の行事を通じて、学年内や異学年間での交流を深めるなど、ピアサポートやファミリーの活動を充実させて、互いの良さに気付けるように進めていきたい。

大阪市立嶋野小学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価（目的別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した。 C：取り組んだが目標を達成できなかった	B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
------	---------------------------------------	--

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 〈 全市共通目標 〉 ① 令和 2 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ② 令和 2 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。 ③ 令和 2 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。 ④ 令和 2 年度の小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。 ⑤ 体力向上に向けて、かけ足週間や、かけ足大会の取り組みを行い、令和 2 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、20m シャトルランの記録を大阪市平均・全国平均を 1 ポイント以上上回るようにする。（※体力テスト中止のため、かけあし週間後に調査該当学年で 20m シャトルランを計測し、大阪市平均・全国平均のそれぞれ過去 3 年間の平均値と比較する。） 〈 学校独自目標 〉 ① 令和 2 年度の学校アンケートの「食に関する興味関心」の項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を、80%以上に維持する。（令和元年度 89.4%・平成 30 年度 83.1%） ② 令和 2 年度の学校アンケートの「早ね・早起き」の項目で、「早ね・早起きの大切さ」で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を、75%以上に維持する。（令和元年度 82.7%・平成 30 年度 76.9%）	

年度目標達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 子どもたちが学びの充実感を味わえるように、年間指導計画の中で体験的な活動を効果的に位置づける。		B
指標 ・各学年、年間2回以上体験的な活動を行う。		
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 図書室の環境整備や図書開放の時間の充実など、児童の読書数を増やすための取り組みをすすめる。		C
指標 ・月～金曜日15分休み、火曜日終日、金曜日昼休みに図書開放を行う。 ・図書だよりを定期的に発行し、学級での図書指導に活用する。		
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 ①学年間の系統性を確認し、学習課題を明確にする。②“主体的な学び”につながるような課題解決の方法等を教材研究する。③研修会を実施する。		C
指標 ・授業研究を年3回、研修会（メンター研修を含む）を定期的に実施する。 ・1人1授業の参観体制を整えて、定期的に実施する。		
年度目標達成に向けた取組の進捗状況の結果と分析		
【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】		
①・コロナ禍で苦慮しながらも、工夫して体験的な活動を徐々に取り入れている。 (出前授業、映像での社会見学、田植えなど)		
②・コロナの影響で図書室開放は難しいが、環境整備は前年度よりできている。 ・図書だよりを定期的に発行している。 ・図書館補助員の絵本読み聞かせ動画や C-NET 教員の英語の絵本の読み聞かせ動画を試験的に作成している。		
③・コロナの影響で、研修会はあまりできていないが、1人1授業の参加体制を充実させ、取り組みの充実を図っている。コミュニケーションカードにより、授業者と参観者との交流を図っている。 ・習熟の活用や、放課後学習、デジタル教科書の活用など学力向上への取り組みを進めている。		
後期に向けての改善点		
【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】		
①・コロナの状況をみながら、計画的に実施していく。 ・体験的な活動が活用できたかを話し合い、次年度に向けて計画を練り直す。		
②・図書館開放の再開 ・学級文庫の見直し(学級文庫の本を他学級の児童が読めない) ・貸し出し冊数などのデータの共有を図り、今後の活動につなげていく。 ・開放の時に本の貸し出しができれば、読書量も増えるのではないかと。 ・開放にかわる読書量アップの取り組みを考える。		
③・コロナ対策の規制が継続する場合、研修会の実施の検討が必要。 ・研修会の実施 ・主体的な学びへとつながる言語活動の研究 ・1人1授業の充実、特に参観者との交流の充実を図る。		

取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 体育科の時間や休み時間に、子どもたちが運動することの楽しさを味わい意欲的に運動することにより、体力の向上につなげるようにする。 指標 ・体力をつけることが将来の健康維持につながることを理解させ、なかよしタイム等に外遊びをするように働きかける。 ・令和2年度の学校アンケートの「日ごろ、運動をよくしている」の項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を75%以上に維持する。	B
取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 「元気アップ週間」を実施して、早寝・早起きの意識が高まるようにする。 指標 ・学期に一度、「元気アップ週間」を設定し、早く寝ることを意識できるようにする。朝会での校長講話などは、引き続き取り組む。 ・「ほけんだより」に「元気アップ週間」の項目に関連する内容を学期に1回は掲載し、学級での指導に活用する。 ・児童が「ほけんだより」を読む機会を増やすために、各学級教室と保健室前に掲示する。また、学級配付時に、おたよりの内容についてもふれる。	B
取組内容⑥【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 すききらいせず食べる習慣が身につくようにはたらきかける。 指標 ・「きゅうしょくだより」や「きゅうしょくカレンダー」を活用し、給食指導を行う。（給食委員会の校内放送、教室での「きゅうしょくカレンダー」の音読など） ・食に関する指導の全体計画に沿って、栄養教諭による食の指導を各学年、年間2回以上行い、学級での栄養指導に活用する。 ・残食を減らすため、13時からの「もぐもぐタイム」を全校で取り組む。 ・年間2回以上、行事献立などのときに、学級担任が授業用パソコンを使い、給食指導中に、伝統行事と食の関連などについて講話する。 ・児童が「きゅうしょくだより」を読む機会を増やすために、各学級教室とランチルーム前に掲示する。また、学級配付時に、おたよりの内容についてもふれる。	B
年度目標達成に向けた取組の進捗状況の結果と分析 【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】	
④・15分休みや昼休みを中心にペア学年やみんな遊び（学級遊び）などで外遊びの習慣ができてきている。 ・普段、外遊びをしていない児童にとって、「みんな遊び（学級遊び）」がきっかけになっている。 ⑤・夜更かしなど、児童や家庭の実態も関係しているが、元気アップ週間が生活リズムを見直すきっかけとしては引き続き一定の効果があると考えられる。 （現時点で、元気アップ週間は7月、11月と計画通り実施できている） ・「ほけんだより」に「元気アップ週間」の項目に関連する内容を、学期1回は掲載している。 （現在6、7、11月に掲載） ・全学年、「ほけんだより」の掲示、内容にふれてからの配付を実施し、児童が読む機会が増えた。 ⑥・給食カレンダーや給食委員会の放送による給食指導が継続できている。 ・栄養指導は栄養教諭が学年と日程調整しながら計画的に進めている。（10月時点で18回の食の指導実施） ・全学年で13時からのもぐもぐタイムに取り組み、残食ゼロに近づく要因になっていると考えられる。 ・行事献立などのときに、授業用パソコンでPowerPointの自動再生を使用した食育の取り組みは10月現在で6回実施している。	

- ・全学年、「きゅうしょくだより」の掲示、内容にふれてからの配付を実施し、児童が読む機会が増えている。

次年度への改善点

【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- ④・学級遊び、ペア学年との交流、遊びの紹介、かけ足週間、大なわ大会など、教員からの働きかけや学校行事を通じて、引き続き外遊びのきっかけづくりを行う。
- ⑤・日々の生活リズムの定着は簡単ではないが、元気アップ週間中に意識できるきっかけづくりになるのであれば、定期的に実施する効果はあると考えられる。元気アップ週間前を含め、ほけんだよりなどで、昨今話題のテーマを入れながら、引き続き、家庭との連携を大切にしていく。
- ⑥・引き続き、13時からのもぐもぐタイムの定着、給食カレンダーまたは、給食委員会の放送を活用することで、日々の給食指導を実施する。季節の献立以外にも食育に必要なテーマ（お箸の使い方など）のPowerPointができたときには、来年度以降の食育にも活用できるので保存しておく。